

# ボランティア通信

(創刊号 Vol.2)

横浜市民ギャラリーのボランティアによる、みんなの広報誌

発行日：2012年2月27日  
編集：横浜市民ギャラリーボランティア・広報チーム  
発行：横浜市民ギャラリー  
(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)  
連絡先：横浜市民ギャラリー  
〒231-0031 横浜市中区万代町1-1  
tel 045-224-7920 fax 045-224-7928



## 「コレクション展 2012 THE フェイス」 3/1(木)～18(日)(会期中無休) に向けて

15名のメンバーがメンバー同士・学芸員との交流を通じて、横浜市民ギャラリーや美術への理解を深めているキュレーションチーム。解説文作成や鑑賞サポーター活動へと幅を広げています。

横浜市民ギャラリーの収蔵作品を年に一度公開するコレクション展に向けて、メンバー同士がお互いの調べたい作家を決め解説文の作成に挑戦するなど、作家の作品を深く掘り下げて知ること、新たなキュレーションチーム活動「鑑賞サポーター」に活かそうとしています。学芸員によるギャラリー・トーク、収蔵作家によるスペシャル・トークも楽しみな「横浜市民ギャラリーコレクション展」を多くの皆さんに楽しんで頂けるよう研鑽を重ねています。ぜひ、メンバーの個性的な鑑賞サポートに、ご期待ください。

キュレーションチーム・成田大作



展示作品のキャプション打ち合わせ中のキュレーションチーム



## アート散歩 Vol.2 横浜税関資料展示室・見学レポート

2012年1月31日(火)14時～ 市民ギャラリー2名、ボランティア12名(合計14名)

1階の会議室で松野・広報室長からお話を聞きました。  
横浜港は6割以上が輸出で、輸出入の1位は成田空港です。  
税関の仕事は、開港当時から麻薬と鉄砲の取り締まりです。国内産業を守るための関税は、特に中国産のシルクに大きく税をかけています。さらに、鑑定業者を頼み、輸入品の偽物を排除し、食品衛生法や動物、植物の検疫の許可証のチェックもしています。  
最初は横浜税関であったものが、横浜・東京と別れ、航空貨物は東京税関、海上貨物は横浜税関が専門で扱うようになりました。  
税関はもとは3つでしたが、現在全国9つに分かれています。横浜税関の出張所の宮城、福島、栃木は昨年(2011年)の東日本大震災で津波に遭い、仙台港の中にはコンテナがまだ500個ぐらい海の中に沈んでいるために船が入れないそうです。  
初代から現在までの税関長の写真が飾られている税関長室に案内されました。金糸で縫われた勲章をつけた大礼服の税関長さんの写真は歴史を感じさせられました。  
昭和18年～21年の写真が空白なのは、アジア太平洋戦争の真っ只中で貿易が全くなかったためです。  
部屋に飾られている旗は、税関旗として明治25年に制定され、青地が海を表し、白地は陸を表しています。現在、青地は海と空(飛行機)を表し、白地は陸を表しています。安全を守る税関ということで、式典の時に日章旗と両方掲げます。

広報チーム  
柴山昌子・佐藤香里・鈴木通弘

みなさんも行ってみませんか

横浜税関資料展示室  
横浜市中区海岸通り1-1  
開館時間 10時～16時  
(5～10月は17時まで)  
Tel 045-212-6053  
みなとみらい線日本大通り駅徒歩3分  
JR関内駅徒歩10分



税関長室で税関旗の説明を聞く

## 松井冬子展担当学芸員による解説と団体鑑賞会(横浜美術館)

1月14日(土)14時～  
八柳サエ・学芸員によるレクチャーの後展覧会観覧  
市民ギャラリー2名、ボランティア8名(合計10名)

死を表現する作品に松井冬子自身の哲学的な文章も添えられ、心に痛く突き刺さる。  
震災あとの事もあり、慎重に検討した上での開催だったと学芸員から説明があり、さらに感慨深い。  
暗く重い作品と相反し、松井冬子はとても華やかで健康的で生命力が感じられる。  
自分自身の内面と向き合わなければならない苦しい作品もあったが、それらも認め生きる事にもっと積極的になりたいと思える展覧会だった。

広報チーム・宮越寿雅子



横浜美術館  
「松井冬子展 世界中の子と友達になれる」  
2011年12月17日～2012年3月18日